

「従業員が投稿」

「Dapp-i」裁判 会社側、関与を否定

東京地裁

一般市民を装って野党やメディアを誹謗（ひぼう）中傷するツイッターの匿名アカウント「Dapp-i」の投稿で名前を傷つけられたとして、立憲民主党の小西洋之（杉尾秀哉）両議院議員が発信

元のワンズクエスト社（東京都世田谷区）に損害賠償を求めた裁判の第2回口頭弁論が28日、東京地裁（小川理津子裁判長）であり、同社側は「従業員が私的に投稿した。会社として投稿に関与していない」と主張する準備書面を提出したといいます。

初めて。同社側は「会社として投稿に関係していない」とも主張しています。原告側は「事実関係に不明な点が多い」として同社にさらなる証明を求めていっています。

裁判後、小西氏らの代理人弁護士は「従業員が投稿したと言つても一人なのか複数なのか、わからない」と述べました。

この日の裁判によると、「就業時間帯」に行われていることを指摘

んでした。小川裁判長

を求めていました。前回

の口頭弁論で同社側は「調査して追って返答する」として、投稿についての関与を明らかに

していませんでした。

稿については、原告側は「開設して以降、5000件超、毎日平均6件の投稿をしている。平日の9時から22時に集中し、土日の投稿はほとんどない」

との裁判で小西氏は「この裁判で小西氏は訴えられていました。